

ふくしま経済クォーターリー

福島県経済の現状と先行き

	現状判断	変化方向	先行き判断	変化方向
県内経済の景況	設備投資は上向いているが、全体としては概ね横ばいで推移している	→	改善の動きはまだ弱く、全体としては概ね横ばいで推移することが予想される	→
消費動向	横ばい基調での推移がみられる	→	横ばい基調での推移が予想される	→
	物価上昇の影響を受けて購入数量は減少しているものの、購入金額はやや増加しており、全体として横ばい基調で推移している。		物価上昇や節約志向の影響が続く状況下にあるが、消費に底堅さがあることや、企業向けヒアリングから横ばい基調での推移が予想される。	
公共投資	請負金額は横ばいの範囲での推移なるも前年同期比増加	→	横ばい基調での推移が予想される	→
	前年同期比で県教育委員会などで発注工事が減少したものの、環境省が大きく増加したことで全体で前年同期比プラスとなり、横ばいの範囲での推移となった。		環境省発注工事のほか道路や河川など進行中の工事が県内各地にあり、横ばい基調での推移が予想される。	
設備投資	卸売業・小売業の大幅増加により全体でも前年比大きく増加	↗	横ばい基調での推移が予想される	→
	前年同期比で卸売業・小売業 +300億円、製造業 +54億円、その他サービス業 +51億円など、大きく増加した業種が多く、全体で356億円増加した。		商業施設や物流施設など県内各地で第4四半期に引き続き工事進捗があることで、横ばい基調での推移が予想される。	
住宅投資	反動減の影響が落ち着き、前年比増加	↗	横ばい基調での推移が予想される	→
	2025年第4四半期は持家・貸家ともに前年同期比増加しており、特に貸家が+76.0%と大きく増加した。		住宅需要は底堅いことから横ばい基調での推移が予想される。ただし、住宅金利引き上げによるマイナス影響には注視する必要がある。	
生産活動	鉱工業生産指数は横ばいの範囲内での推移	→	横ばい基調で推移が予想される	→
	鉱工業生産指数は前年同期比上昇している業種数が下降している業種数を少し上回っており、全体としては横ばいの範囲で推移している。		原材料価格高騰がマイナス要因となる可能性はあるが、企業向けヒアリングからは横ばい基調で推移することが予想される。	
雇用動向	有効求人倍率は横ばいの範囲内での推移	→	有効求人倍率は横ばいでの動きが予想される	→
	2025年第4四半期は有効求人数が減ったことで、有効求人倍率が1.1倍台に下降したが、横ばいの範囲で推移している。		人手不足下で求人が底堅く見込まれ、横ばいで推移することが予想される。ただし、物価上昇等による雇用動向へのマイナス影響には注視する必要がある。	

注1：「変化方向」は直近統計データを基に前期と比較した現在における景況の変化方向（↗：改善、→：不変、↘：悪化）を示し、当期と前期における2四半期加重移動平均（消費動向、生産活動、雇用動向）、3四半期加重移動平均（設備投資、住宅投資、生産活動）の前年同期比を比較して判断。

注2：現状判断は直近データとなる2025年第4四半期のデータとヒアリングをもとに総合的に判断。

注3：先行き判断は統計データのこれまでの動きやヒアリングなどをもとに総合的に判断。

【参考：地域企業の声】

消費動向	<ul style="list-style-type: none"> ◇年末年始の帰省客などに高級寿司や本マグロの刺身が良く売れた。消費者は節約する中でも、良いものは買うというメリハリ消費をしているようだ（百貨店・スーパー） ◇昨年に比べ気温が低くないこともあり、ヒーターなど家電製品、防寒服といった冬物商品が軒並み昨年よりも売れていない（ホームセンター） ◇受注は安定しておりコンパクトカーなど小型車の需要が旺盛である。普通車は減っているが、ハイブリッド車など高価格帯の車種にも根強い需要がある（自動車販売）
住宅投資	<ul style="list-style-type: none"> ◇ガレージ付き賃貸など良い物件に対する需要がある。住宅需要は底堅く安定しているので、大きく増えることはないが、大きく減るといったこともないだろう（住宅）
生産活動	<ul style="list-style-type: none"> ◇海外向けは減少したが国内向けは堅調であり、第4四半期は対前年比増加した。先行きは初めに第4四半期で増加した反動が予想されるが、その後増加する見通し（輸送用機械） ◇中国の対日輸出入規制の影響は、原燃料の調達において現状影響は出ていないが、輸出規制の対象になっているものもあり、動向を注視して影響を最小限にとどめたい（化学） ◇一部顧客で生産調整の動きがみられたものの、全体としては受注が堅調に推移し、概ね前年並みの水準を維持している（電子部品・デバイス）

	項 目	2024年		2025年			
		第3四半期 7～9月	第4四半期 10～12月	第1四半期 1～3月	第2四半期 4～6月	第3四半期 7～9月	第4四半期 10～12月
消費動向	百貨店・スーパー販売額（全店舗）	△ 2.3	△ 1.3	△ 1.7	△ 0.2	1.7	△ 0.7
	コンビニエンスストア販売額（全店舗）	△ 1.8	0.1	0.5	1.4	1.9	0.7
	ドラッグストア販売額（全店舗）	5.9	7.0	4.4	5.6	4.4	6.5
	ホームセンター販売額（全店舗）	△ 5.3	△ 5.6	△ 2.4	△ 1.3	△ 1.7	△ 2.1
	家電大型専門店販売額（全店舗）	△ 2.2	△ 3.1	0.1	3.2	△ 2.8	1.2
	乗用車販売台数	△ 1.4	△ 3.6	△ 0.0	1.3	△ 1.5	△ 3.5
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	2.6	△ 22.3	△ 4.7	10.4	△ 5.1	27.3
設備投資	建築着工工事費予定額（民間非居住用）	68.2	△ 26.6	104.5	△ 40.4	89.3	78.3
住宅投資	新設住宅着工戸数	△ 7.5	△ 28.5	19.3	△ 35.1	△ 23.2	22.6
生産活動	鉱工業生産指数（総合）	2.6	2.0	△ 2.8	△ 4.1	△ 5.4	△ 3.6
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）	△ 0.13	△ 0.12	△ 0.03	0.02	0.00	△ 0.03
	雇用保険受給者実人員	4.8	1.6	△ 2.5	△ 5.6	6.4	7.8

注1：鉱工業生産指数は原指数、有効求人倍率は原数値。Rは訂正值。

注2：鉱工業生産指数は、統計公表時期の都合により、第1四半期（12～2月）、第2四半期（3～5月）、第3四半期（6～8月）、第4四半期（9～11月）として集計。

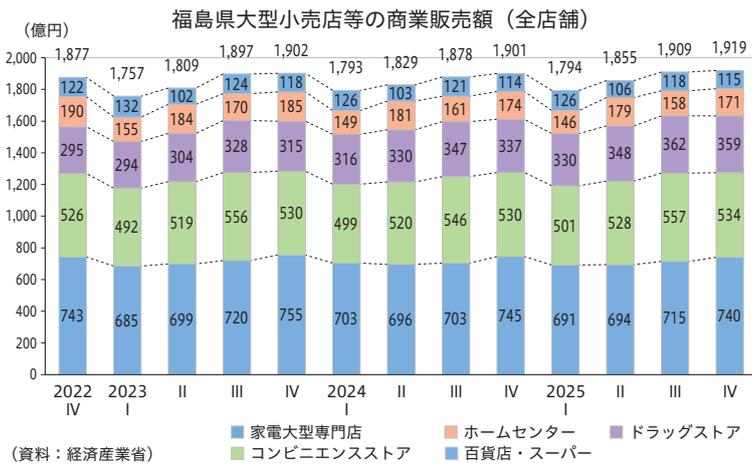
【エコノミストの一言コラム】

コメ価格と物価上昇

- ・総務省統計局「消費者物価指数」（2020年＝100）（福島市）を直近2025年12月数値と2年前の2023年12月を比較しますと、総合では106.8→112.8と6.0ポイントの上昇にとどまるのに対し、コメなどが含まれる穀類に限りますと112.2→156.2と44.0ポイントと大きく上昇しており、コメ価格が急激に上昇したことで物価全体を押し上げた形になっています。
- ・農林水産省が昨年12月に公表した「生産農業所得統計」によりますと、福島県の2024年農業産出額は2,874億円で前年比＋32.9%の711億円増加しています。内訳をみてみますと、米が1,324億円で同＋92.7%の637億円増えています。関係者の努力により輸出货量や国内販売量が増えたことに加え、コメ価格上昇の影響を受けて生産額が増えたものとみられます。
- ・農林水産省「米に関するマンスリーレポート」によりますと、令和7年産米の相対取引価格（円/玄米60kg）は、全銘柄平均で昨年9月に36,895円でスタートしたところから、11月以降は低下し12月には36,075円となっています。令和7年産米の相対取引契約の累積数量は、昨年12月までに累計1,112千トン（玄米）であり、令和6年産米の同期比＋32.1%と、供給量自体が増えて価格低下することが期待されます。コメ価格が低下することで物価全体の上昇の伸びが鈍化することも考えられます。

【商業販売額】ドラッグストア、コンビニ、家電大型専門店は前年比増、百貨店・スーパーとホームセンターが前年比減

2025年第4四半期の商業販売額は、百貨店・スーパー740億27百万円（前年同期比△0.7%）、ホームセンター170億79百万円（同△2.1%）と前年を下回ったものの、ドラッグストア359億10百万円（同+6.5%）、コンビニエンスストア533億79百万円（同+0.7%）、家電大型専門店115億27百万円（同+1.2%）と前年を上回った。なお、百貨店・スーパー、コンビニ、ドラッグストア、ホームセンター、大型家電専門店の販売額合計は1,919億22百万円（同+1.0%）と4期連続で前年を上回った。

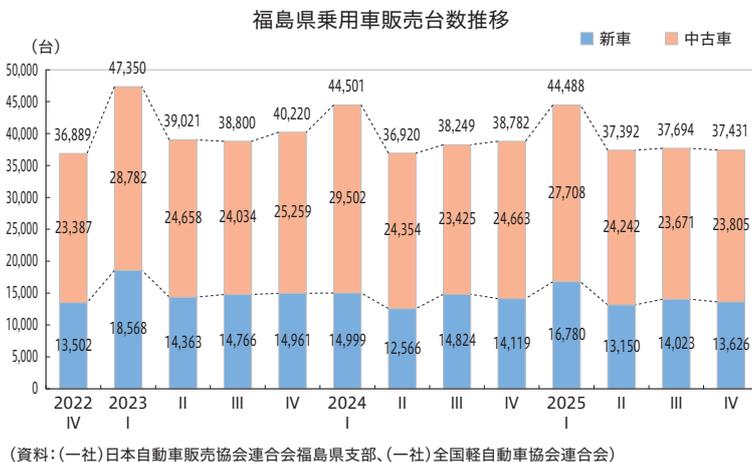


エコノミストの一言

消費者の節約志向があり、購入数量は減っていますが、物価上昇の影響により売上高自体は前年同期比増加しています。先行きについては、物価上昇により節約志向は続くものとみられますが、購入単価が高止まりしていることで、商品販売額は横ばい基調で推移するものと予想されます。

【乗用車販売】全体・新車とも2期連続で前年比減

2025年第4四半期の乗用車販売台数をみると、新車が13,626台（前年同期比△3.5%）、中古車が23,805台（同△3.5%）、合計が37,431台（同△3.5%）となり、2期連続で前年を下回っており、小型車が前年同期比+11.1%、軽乗用車が+4.5%と前年比増となった一方、普通車が同△17.3%と前年比減となった。



エコノミストの一言

新車販売は、コンパクトカーのような小型車は好調ですが、普通車は生産調整による販売店での受注停止などの影響から前年比減少となり、新車全体で減少しています。新車の先行きは、車需要に底堅さがあり安定しており、前年比横ばいでの推移となるものとみられます。

【消費者物価指数】前期比・前年同期比とも上昇

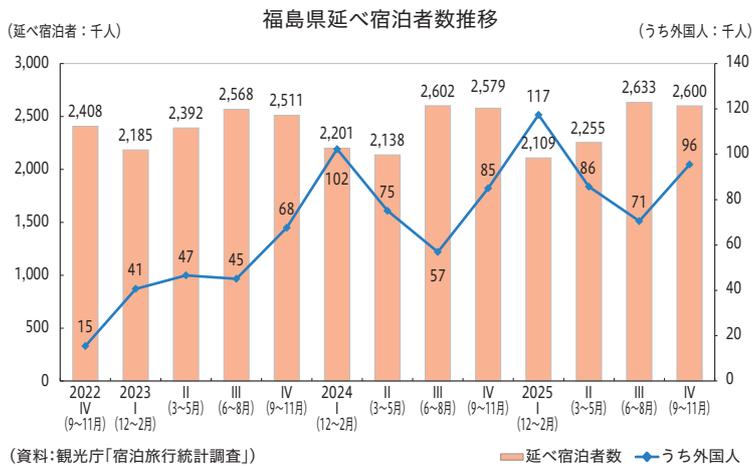
2025年第4四半期の消費者物価指数は、総合指数（福島市、2020年=100）が112.7で前期比+1.2%、前年同期比+3.0%。費目別に前期比で見ると、「被服及び履物」の114.9（前期比+3.5%）など7費目で上昇し、「保険医療」の103.8（同△0.7%）など2費目で低下した。

福島県消費者物価指数
(総合指数2020年=100)



観光

※統計公表時期の関係上、第4四半期は2025年9月～11月合計を使用



【延べ宿泊者数】3期連続で前年比増

2025年第4四半期の延べ宿泊者数は、2,600,170人（前年同期比+0.8%）と3期連続で前年を上回った。このうち、外国人延べ宿泊者数は95,500人（同+12.3%）と13期連続で前年を上回っている。

公共投資

【公共工事】件数は前年比減・保証金額・請負金額は前年比増

2025年第4四半期の公共工事前払保証取扱は、件数が1,076件（前年同期比△7.5%）、保証金額が302億5百万円（同+28.9%）、請負金額が674億30百万円（同+27.3%）と、件数は前年を下回ったものの、金額は上回った。請負額の発注者別では、環境省で前年同期比大きく172億円増加した。



エコノミストの一言

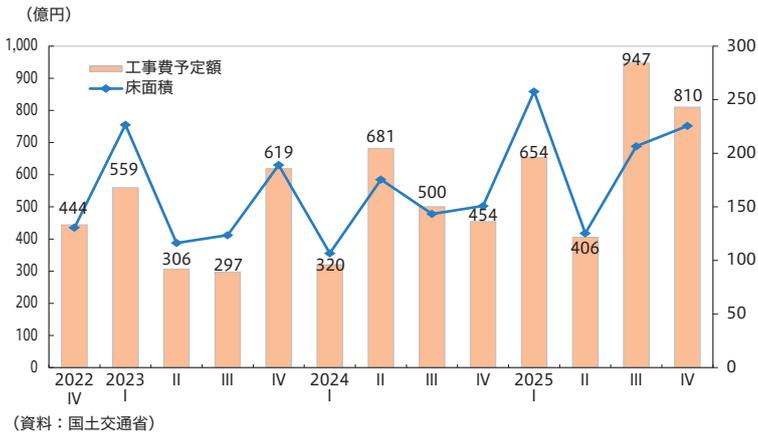
環境省発注工事の増加で2025年第4四半期は前年同期比増加しました。県北と県中での大型商業施設や阿武隈川上流調整池工事など県内各地で進行中の工事がありますので、請負金額は横ばい基調での推移が予想されます。

設備投資

【設備投資】棟数・床面積・工事費予定額いずれも前年比増

2025年第4四半期の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が479棟（前年同期比+51.1%）、床面積が225,535㎡（同+49.5%）、工事費予定額が809億96百万円（同+78.3%）といずれも前年を上回った。工事費予定額を用途別にみると、「卸売業・小売業用」で前年比大きく増加した。

福島県建築着工推移（民間非居住用）



エコノミストの一言

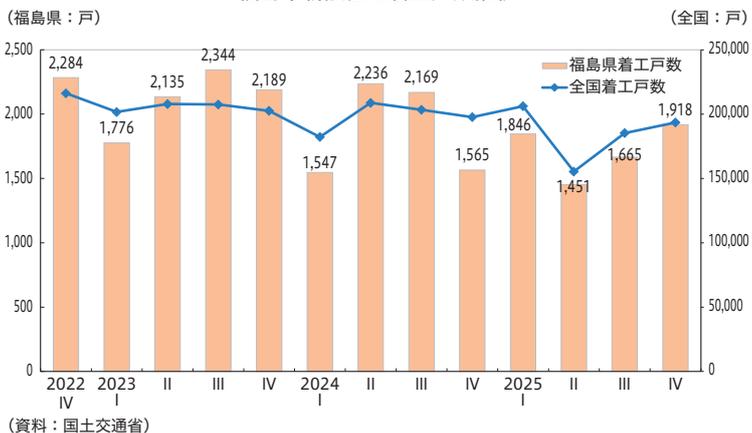
2025年第4四半期は「卸売業・小売業用」で前年同期比300億円増加しており、特定の大型商業施設建設工事が数字を大きく押し上げたものとみられます。他にも「製造業用」「その他サービス業用」で前年同期比大きく増加しています。

住宅投資

【住宅建設】3期ぶりに前年比増

2025年第4四半期の県内新設住宅着工戸数は1,918戸（前年同期比+22.6%）と3期ぶりに前年を上回った。主な利用関係別にみると、「持家」が895戸（同+14.2%）、「貸家」が653戸（同+76.0%）、「分譲住宅」が368戸（同△4.4%）と、持家と貸家が前年を上回った。

福島県新設住宅着工戸数推移



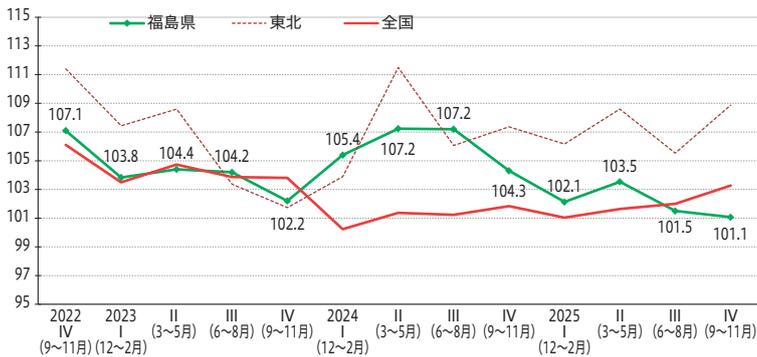
エコノミストの一言

持家・貸家とも前年同期・前期比で増加しています。2025年4月からの住宅省エネ法改正に向けた駆け込み申請の反動減は第4四半期には落ちついていきます。先行きについては、金利動向がマイナス要因となる可能性はありますが、住宅需要が底堅いことから横ばい基調で推移することが予想されます。

【鉱工業生産指数】前期比・前年比ともに低下

2025年第4四半期の鉱工業生産指数は、季節調整済指数が101.1（前期比△0.4%）、原指数が104.4（前年同期比△3.6%）となった。業種別の季節調整済指数前期比をみると、「印刷業」（前期比+33.8%）など10業種で上昇し、「プラスチック製品工業」（同△5.7%）など9業種で低下した。

福島県鉱工業生産指数（全国、東北との比較）
季調済 2020年 = 100



(資料：福島県企画調整部統計課)

エコノミストの一言

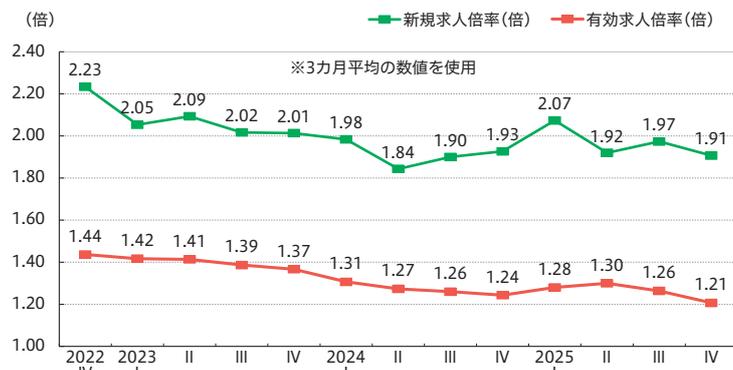
企業ヒアリングによれば、現状は前年同期比並みあるいはやや増加という回答でした。先行きについては安定した受注があることで、横ばい基調での推移が予想されます。需要減につながる要因となる原材料価格動向には注視していく必要があります。

雇用動向

【雇用動向】有効求人倍率は前期比下降

2025年第4四半期の新規求人倍率（3カ月平均）は、季節調整値が1.91倍（前期比△0.07ポイント）、原数値が2.24倍（前年同期比+0.01ポイント）となり、有効求人倍率は、季節調整値が1.21倍（前期比△0.06ポイント）、原数値が1.30倍（前年同期比△0.03ポイント）となった。また、同第4四半期の雇用保険受給者実人員は19,975人（前年同期比+7.8%）と2期連続で前年を上回った。

福島県求人倍率（学卒を除きパートを含む季節調整値）推移



(資料：福島労働局職業安定部)

エコノミストの一言

前期と比べ、有効求人数が減ってきていることで、有効求人倍率は今年1月に1.1倍台まで低下しています。人手不足下にはありますが、物価高などから企業側がパートを中心に採用を絞っているものとみられます。雇用保険受給実人員は景気の悪化というよりも、より良い条件を求めての前向きな転職などから増えてきています。

企業倒産

【企業倒産】件数は前年比減・金額は前年比増

2025年第4四半期の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、件数が29件（前年同期比△6.5%）、負債総額が45億10百万円（同+16.9%）。業種別では「建設業」8件、「サービス業」6件、「製造業」「卸売業」「小売業」各4件、「運輸通信業」「不動産業」「その他」各1件であった。

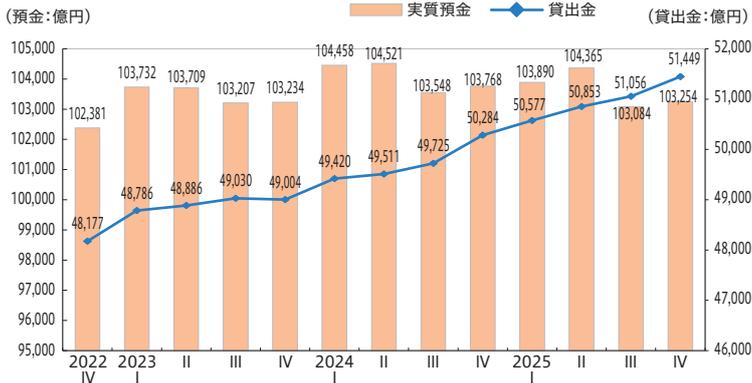
福島県企業倒産（負債金額10百万円以上）件数・金額推移



(資料：帝国データバンク福島支店)

金融動向

福島県民間金融機関実質預金・貸出金



(資料：日本銀行福島支店)

※各期末残高の数値

【資金需給】前年比で預金減少・貸出金増加

県内金融機関（全国銀行の県内店舗分、県内8信用金庫の全店舗分）の2025年第4半期末（12月末）の実質預金残高は10兆3,254億円（前年同期比△0.5%）、貸出金残高は5兆1,449億円（同+2.3%）と、預金は減少、貸出金は増加した。
※実質預金は、総預金から未決済の他店払い手形・小切手類の合計金額を控除したもの。

【保証協会】保証承諾は件数、金額とも前年比増、代位弁済は件数、金額とも前年比増

2025年第4半期の保証承諾は、件数が2,451件（前年同期比+3.8%）、保証金額が410億63百万円（同+9.9%）。同第4四半期末（12月末）現在の保証債務残高は、件数39,602件（前年同期比△2.6%）、金額4,802億54百万円（同△4.1%）。一方、同第4四半期中の代位弁済は、件数が223件（同+10.9%）、金額が26億81百万円（同+9.7%）。

保証協会の保証承諾推移



(資料：福島県信用保証協会)